

プログラミング

大崎の矢端さん
2年連続最優秀

仙台で県小学生大会

「みんなのみらい」をテーマにアプリやアイデアを競う県小学生プログラミング大会（河北新報社、東北工大など主催）が12日、仙台市太白区の東北工大八木山キャンパスで行われた。最優秀賞・清水建設賞には大崎市古川三小6年の矢端千佳さん（12）が2年連続で選ばれた。

大会には17組20人が順番に作品を発表。同大工学部の室山真徳教授ら5人が発想力や表現力、技術力の観点

点で作品を審査した。

矢端さんの作品「みらいの踏切くずんだもんが命を守るのだー」は、遮断機や警報機がない「第4種踏切」の事故を防ぐためのアプリ。踏切に障害物があった場合、赤信号で運転士に知らせる仕組みを作った。自宅近くの踏切を見て問題点に気付いたという。矢端



2年連続で最優秀賞を受賞した矢端さん（左）

さんは来年3月、東京で開かれる全国選抜小学生プログラミング大会に出場する。「安価にできる利点を生かしつつ、改良を考えたい」と語った。

他の上位入賞者は次の通り。（敬称略）

▽優秀賞 香味宙樹（ホライゾン学園仙台小5年）▽優良賞 菊地律希（仙台市上杉山通小3年）▽アイデア賞 阿部穂花（宮城教育大付属小4年）▽審査員特別賞 森谷悠生（仙台市南材木町小6年）